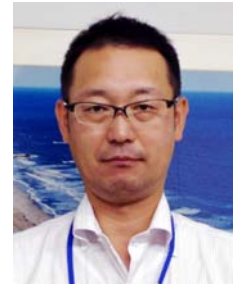


■ ご挨拶 理事就任のご挨拶



日本風力発電協会 理事 **高田 宏永**
エコ・パワー株式会社 取締役

はじめに

このたび、総会において当協会の理事を拝命しました高田 宏永(たかだ ひろなが)です。この6月25日に風力業界に携わるようになったばかりの新参者ではございますが、日本の風力発電産業および当協会の発展に貢献できるよう、会員の皆様のお力添えを頂きながら任務を果たす所存でございます。

石炭の街に生まれ

私は北海道の内陸に位置する炭鉱の街三笠市で生まれ育ちました。私が物心ついた頃には日本の石炭産業は衰退の一途で、いくつかの大きな事故に加え、安い海外炭との競争に敗れ閉山が相次ぎ、その度に町が寂れ、多くの友達も去っていきました。唯一残っていた炭鉱も1989年に閉山し、市内の炭鉱は姿を消しました。現在は日本で二番目に人口の少ない市となっております。

石油元売会社に入り

大学卒業後、コスモ石油(入社当時は大協石油でしたが)に入社し、札幌支店を皮切りに3つの支店での営業管理と本社での大口顧客への直売と国内営業関係に23年間従事していましたが、年々減少する石油製品需要に頭を痛めておりました。

原油開発そして風力発電へ

ところが5年前、コスモ石油Grのアブダビ石油出向を任せられ、原油開発の利権更新に携わることとなりました。同じ石油業といえども精製元売業と石油開発業は全く別物で、大変苦労しましたが、同時にとても貴重な経験を積みさせていただきました。そして今年5月、エコ・パワー(株)への出向を任せられ、50歳にして風力発電という新たな挑戦の場を与えていただくことになった次第です。

喫緊の課題

昨年7月より施行されたFIT 固定価格買取制度により、再生可能エネルギーによる発電事業がビジネスとしての基盤を作れるようになりました。これも長らく政策的な後押しのない中でも、低環境負荷とエネルギー自給率向上を社会的な使命として事業展開されてきた会員の皆様方および協会のご尽力の賜物と存じております。また風力発電事業の拡大にあたってはFITだけでなく、環境影響調査、環境に関する規制や農地転用問題等の各種規制や系統連系枠不足といったインフラ問題等、政策的な後押しを必要とする課題が存在することもここに来て理解したつもりです。微力ではございますが課題の解決に向け私も尽力いたしますのでご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

最後に

国内石炭産業の凋落、国内石油需要の減少と精製設備廃棄を目の当たりにしてきた私にとって風力発電業界は今後の成長が期待されるまさにフロンティア。これからの挑戦に胸が高鳴っております。